『カクキューの八丁味噌を愛した著名人』
～ 津田 信吾 ～

津田信吾の肖像画
（昭和 54 年 1 月 5 日発行
「岡崎の人物史」より）

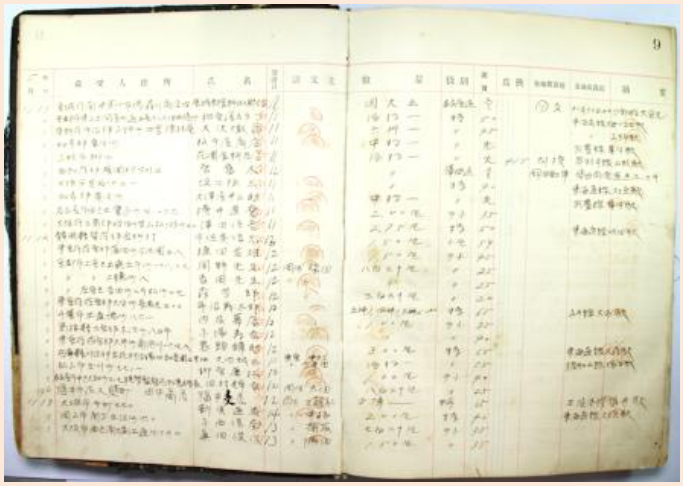
1881 年（明治 14 年）～1948 年（昭和 23 年）。
愛知県岡崎市出身。旧岡崎藩士。実業家。鐘紡社長。
1961 年（昭和 36 年）岡崎市名誉市民。

慶応義塾の政治科出身でしたが、一職工として鐘紡に入社。その後、第 2 代社長を務めました。日本で初めて合成繊維（ビニロン）を生産し、日本の繊維業界が重化学工業へと発展する契機となりました。津田の鐘紡か鐘紡の津田と称えられ、鐘紡の全盛時代を築きました。

津田信吾は岡崎市の老舗御菓子司「五万石藤見屋」の初代当主と兄弟です。また津田信吾は銘菓「五万石」のアドバイスを与えました。
2024 年（令和 6 年）は岡崎の開市から 500 年が経過した節目の年を迎えました。

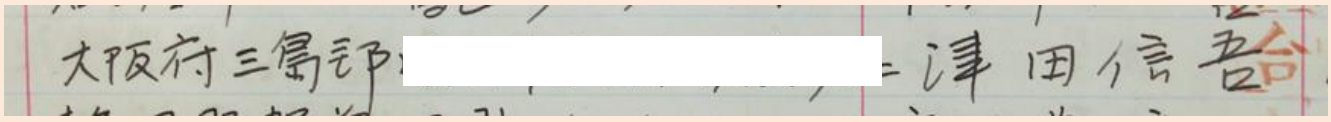
当社史料室には昭和時代にお客様の御用命により、津田信吾の自宅宛に味噌をお送りした記録が残っています。自宅は大阪府三島郡吹田（現・大阪府吹田市）。また、藤見屋や当社の掲載された 1936 年（昭和 11 年）の「岡崎繁栄商店双六」が残されています。

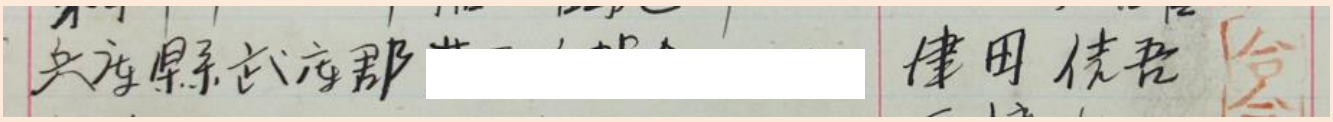
＜津田信吾へ味噌を送った記録（荷物発送簿）＞



中身

表紙





上：昭和 5 年（1930 年）11 月 11 日
下：昭和 6 年（1931 年）9 月 6 日

「岡崎繁栄商店双六」（1936 年（昭和 11 年））

岡崎名物

五万石の由来

四百余年の昔、家康公の祖父　松平清康公が家臣大久保忠茂の武功をほめてその望みをたづねたところ、忠茂は固く辞退しましたが、再三の仰せに断わり難く、されば領内市場の税金を免除してほしいと申しました。

清康公は何か仔細があるものと望みを許して徴税を免除したところ、諸国の商人が手をたづさえて集まり、屋並は揃い市街は発展して〈五万石でも岡崎さまはお城下まで船がつく……　と世にうたわれる様な賑わいをみせました。

一忠臣の経済的慧眼によって基礎を定めた岡崎市、五万石でも東海道の重鎮であった城下の面影を記念すべく、初代藤見屋の当主が苦心の結果、矢作川を上り下りした船を形どった銘菓**五万石**を案出しました。うるち米と上質の砂糖を主原料に焼き上げた香ばしさは　**五万石**の特徴で、お土産にお茶うけに広く喜ばれております。

原材料：砂糖、米粉（米国・国産）、けしの実

各種名物製造元

御菓子司

㈲五万石　**藤見屋**

岡崎市本町通一丁目四

☎（〇五六四）二二－〇九一九代

御菓子司「五万石藤見屋」のしおり（2024 年（令和 6 年））

2024.10.17